



K-U(キック・ユニオン)
キック・ユニオン設立記念試合
7月24日●東京・後楽園ホール

控室に戻った勝者に笑みはなかった。誰の目から見ても佐久間の完勝劇。しかもK-U旗揚げ第一戦のトリだったにもかかわらず、その表情に喜びは感じられなかった。エースと声をかけたら、佐久間は「ジムの数が少なくなつてエースと言われても...俺はそんなのばっかりですね。実力でエースの座を勝ちとりたい」と訴えた。佐久間はわかっていて。ラミネスは磨けば光るタイプだが、現地点では勝つて当たり前の相手ということを。おそらく1Rに闘っている最中に、佐久間はラミネスの実力を見切ったに違いない。

案の定、2Rになると、佐久間はアッサリと勝負をつけた。結果的にラミネスは実力未知数の相手と闘う時の心構えを試すテキストにしかならなかった。

もちろん喜ほうと思えば、喜べたに違いない。勝利を収めてうれしくない選手はいない。だが佐久間は、もっと上のレベルで自分を試したいという野望を持っている。格下のラミネスに勝つたくらいで、大騒ぎはしたくなかった。

だからこそNJKFの鈴木秀明がムエタイの現役ランカーを破ったことに対する感想を求められると、佐久間の顔色が変わった。「意識します。俺も(ランカー越えを)目標にしているんで」



もっと大きなチャンスが欲しい

2R、右ローで3度めのダウンを奪った佐久間は倒れたラミネスをひと息み、1Rで勝つのがわかつたじゃないですか。2Rは倒す試合をしたかった。

佐久間は鈴木にジェラシーを抱いていることも否定しなかった。「どんな勝ち方にしろ、俺はまだランカーに勝っていない。それどころか現役ランカーじゃやない奴(グライガン・ワーン)にボコボコにやられていきますから」

キックの世界における「世界標準」といえば、やはりムエタイ。ムエタイの強さが世界最高峰と見なされるからだ。それゆえに佐久間は「自分にもチャンスがほしい」と呟いた。佐久間の胸に宿った「ムエタイ標準」はもうすぐやってくる。

鈴木秀明選手がランカーに勝つたことは意識します まだエースとは呼ばないでくれ 佐久間の視線は「ムエタイ標準」



●2017年7月24日、後楽園ホールでプロデビューした佐久間。身長177cm、体重75kg、25歳。

○佐久間晋哉(八王子市立の出身、57歳、27歳)

(2R0分51秒、TKO) ●オーストラリア人

●アルバルト・ラミネス(ドイツ人、56歳、75歳、25歳)

●WMC(USA)の元王者

●ラミネスは右ローで3度めのダウンを奪った。また、セコンドがオーストラリア人の選手に変わると、右ローで3度めのダウンを奪った。また、セコンドがオーストラリア人の選手に変わると、右ローで3度めのダウンを奪った。

○いつも通り、「唐の刺繍をしたガウンを身に着けて」登場した佐久間。メインイベントの風格は十中八九あった。



○2R、(フットワーク)と鈴木秀明の叫び声を上げながらラミネスが2度めのダウンを奪った。セコンドは迷わずタオルを投入した。

○1R開始早々、右の内ももローで佐久間のバランスを崩したラミネス。「あのローにはちょっと強かった。でもそれだけでですね」



○トリッキーな回し蹴りなど、テコンド一の五輪代表の名に恥じない動きも見せたラミネス。磨けば、光るキックボクサーになるかも

○K-U旗揚げ第2戦は9月22日の後楽園に決定。佐久間はムエタイのランカー、あるいはそれに準ずる選手と闘う予定。チャンスだ



○「1Rは見る予定だった」という佐久間。「半年ぶりの後楽園だったから、緊張してしまいましたよ」



選手	小形 稔	川上 伸	阿部 健一
対戦相手	ラミネス	ラミネス	ラミネス
結果	10	10	7